

読解力・表現力の向上を目指した実践

高千穂町立高千穂中学校
教諭 川野 将太

1 はじめに

本校は、令和元年度よりNIE実践指定校となっており、2年目である本年度は、「新聞を活用した読解力・表現力の向上」をテーマにして取り組んだ。そのため、昨年度の取組の改善と教科の授業での活用を行った。

また、本校では以前から、高千穂販売所の方のご厚意で、毎日、学級に1部の宮崎日日新聞が無償で配付されており、生徒たちが過ごす教室に必ず新聞がある環境が整っている。

2 本年度の取組

(1) 新聞コーナーの設置

① 目的

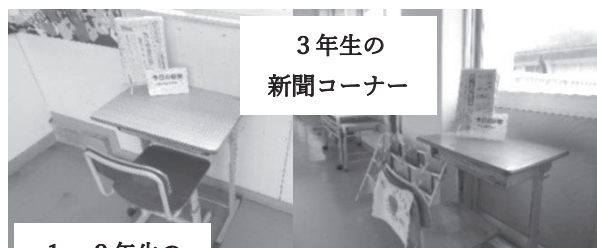
- ・ 生徒が気軽に新聞を手にすることができる場を設置することで、新聞に対する興味・関心を高める。
- ・ 切り取り可能な新聞を準備することで、教職員が新聞を授業で利用しやすくする。

② 昨年度の反省

- ・ 図書室に設置したが、図書室を利用する生徒が限られており、より多くの生徒が新聞に触れられる場所に設置した方がよい。
- ・ 授業で新聞を利用したいときに、新聞の数が足りないことがあった。

③ 取組方法

- ・ 生徒の行き来が多く、新聞を目にしやすい廊下に新聞コーナーを設置した。
- ・ 3年生用と1、2年生用を設置し、椅子を用意することで、その場でじっくり読むことができるようにした。
- ・ 過去1ヶ月分の新聞は、図書室に収納スペースを作り、自由に読むことができるようにした。
- ・ 教職員専用の新聞コーナーを印刷室に設置し、授業で利用しやすいようにした。



3年生の
新聞コーナー



1、2年生の
新聞コーナー

④ 取組の実際

- ・ 生徒たちの目に入りやすい場所に設置したため、新聞記事に興味・関心をもち、その話題について先生に聞いてくる生徒が出てきた。
- ・ 廊下に設置したため、通りすぎるだけの生徒が多かった。
- ・ 人の行き来も多いので、座って新聞記事をじっくり見る生徒は少なかった。
- ・ 授業で新聞を利用したいときに、一人1部の新聞を確保することができた。
- ・ 呼びかけはしたが、あまり利用する教職員は多くなかった。



教職員用の新聞コーナー

(2) 新聞を利用した1分間スピーチの実施

① 目的

- 生徒が新聞を読む機会をつくり、指定の文字数に要約したり、規定の文字数で自分の感想や考えをまとめたりすることで、生徒たちの読解力・表現力の向上につなげる。

② 昨年度の反省

- 学級それぞれでワークシートを用意してもらったので、教職員の負担感が増し、学級によって取り組みに差が出てしまった。

③ 取組方法

- 学校全体で共通のワークシートを用意し、職員研修を行って共通理解を図った。
- 自分の気になる記事を切り取ってワークシートに貼り、要約（100字以内）と自分の感想や考えたこと（120字～200字）を記入し、1分間で発表した。
- 1日に1人ずつ、朝の会または帰りの会でスピーチを行った。

④ 取組の実際

- 学級に配付されている新聞を使うことで、生徒全員ができるようにした。
- 学級によっては、スピーチの後に生徒が感想を伝えたり、過去のスピーチのワークシートを掲示したりすることで、生徒たちが意欲的に取り組めるような工夫をしていた。
- 1年生は、国語で文章の要約について取り扱った後から実施したことで、スムーズに取り組むことができた。
- 継続的に取り組んだことで、感想の内容が具体的になっている生徒が増えた。

(3) 教科での実践・活用

① 目的

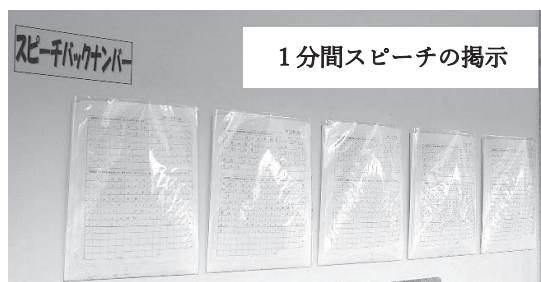
- 授業実践で新聞記事を活用してもらうことで、教科の内容を深めたり、身近な出来事に目を向けたりすることができるようになる。
- 新聞記事を使った課題を継続的に取り組むことで、読解力・表現力の向上につなげる。

1分間スピーチのワークシート

<small>【要約】 ※ 新聞記事の内容を100字以内でまとめよう。</small>									
要約（100字以内） 記入欄									
<small>【感想】 ※ 新聞記事を読んで、考えたこと、気づいたこと、感じたことなどを120字以上200字以内で書こう。</small>									
感想 （120～200字） 記入欄									

実際の1分間スピーチで生徒が記入し、発表した感想

6	0	T	o	イ	ー	ト	は	コ	ロ	ナ	ウ	イ	ル	ス	15
の	影	響	テ	お	客	さん	が	少	お	く	テ	困	ッ	20	
テ	い	る	飲	食	店	を	助	け	る	た	め	に	始	め	25
た	取	り	組	み	の	ほ	ず	の	に	こ	ト	テ	け	30	
飲	食	店	の	利	益	が	少	な	く	お	ろ	の	で	け	35
な	い	か	お	と	思	い	ま	し	た	。	く	ら	青	司	40
以	外	の	お	店	で	も	同	じ	任	組	み	テ	飲	食	45
が	で	ま	ろ	そ	う	デ	ス	。	も	っ	と	飲	食	店	50
が	助	か	ろ	よ	う	お	方	法	が	あ	っ	た	の	で	55
は	お	い	か	な	と	思	い	ま	し	た	。				60
自	解	す	る	く	う	い	任	事	の	こ	と	で	悩	ん	65
で	い	た	ト	加	こ	ん	な	に	た	く	ま	ん	い	た	70
こ	と	は	、	知	り	ま	せ	ん	で	し	た	。	私	た	75
ち	は	、	職	業	を	選	ぶ	時	、	表	面	的	な	と	80
こ	う	を	見	か	ち	た	け	ど	、	勤	労	時	間	が	85
任	事	量	、	付	き	合	う	こ	と	に	な	る	て	あ	90
ろ	う	ト	は	ど	本	当	に	そ	の	任	事	が	自	分	95
に	合	っ	て	い	る	の	か	と	見	極	め	た	よ	て	100
進	路	を	探	め	て	い	く	よ	う	に	し	た	い	て	105
す	。														110



② 昨年度の反省

- ・ 取り組んだ教科が少なかったなので、なるべく多くの教職員に実践してもらったり、新聞を活用した課題を利用してもらったりしたい。

③ 取組方法

- ・ 校内研究の一つとして、4名の教職員が新聞を活用した授業実践を行った。
- ・ 3年社会では、「読売新聞ワークシート」を利用した週末課題に定期的に取り組んだ。
- ・ 3年理科では、月に1回「興味のある理科に関するニュース」を取り上げ、要約と感想を書く課題を行った。
- ・ 国語では、全学年で「天声人語で200字作文」を利用した課題に定期的に取り組んだ。

理科の課題で使用したワークシート

理科に関するニュース
 コロナウイルス以外のニュースを探しましょう

※ 最後の行までしっかり書くこと。
 ※ ニュースから考えたことを感想に書くこと。

月 日 () 新聞

(要約) 簡単に言い換えると...いつ どこで 何が どうなった (何が良かった)

(感想) 思ったこと

④ 取組の実際

- ・ 校内研究の授業実践は美術、理科、保体、社会の4教科で行った。
- ・ 美術では、「平面構成」の単元における作品づくりのテーマを決めるために新聞記事を利用した。
- ・ 理科では、「状態変化と融点」の単元におけるまとめの段階で、実験で使用した物質がどのようなことに使われているのかを確認するために、インターネット上の記事を利用した。
- ・ 保体では、「感染症の予防」の単元で、感染者が増加していることを読み取らせたり、なぜ感染者が増えたのかを考えたりするための資料として利用した。
- ・ 社会では、「経済」



社会の授業で生徒が実際に記入したワークシートの内容

- ・ 単元の導入として、これから学習する内容と関連する新聞記事を見つけ、今後の学習で自分が知りたいと思ったことを互いに発表する活動に利用した。
- ・ 「読売新聞ワークシート」の活動を続けたことで、最初は箇条書きでしか解答できなかった生徒が徐々に文章で解答できるようになっていった。

◎ 新聞記事の内容
 菅首相は、安倍前内閣の全世代型社会保障改革を継承した上で、「自助・共助・公助」と組み合わせて支える社会を目指すとしているが、それが具体的にどんな社会像なのかは、さしは、少ない。少子化対策の3つの課題はオンライン診療の恒久化などに取り組まねばならない。しかし、社会保険料負担は年々膨らみ続けている。菅総理は消費税率を上げる方針だが、コロナ禍で増徴を再検討も心配ではないか。

☆ これからの学習で知りたいこと
 社会保障改革は大胆かと思うが、おまけに税金を上げるべきではないかと思うので、徹底的に保障を行うにはどうするべきなのか。

◎ 新聞記事の内容
 バイデン新大統領の当選が確定となり、外国為替市場で円高への警戒感が強まっている。

☆ これからの学習で知りたいこと
 円高と円安か。
 円高がいつまで続くのか。

- ・ 「興味のある理科に関するニュース」の活動を継続的に行っていったことで、普段の生活から新聞記事の内容に興味・関心をもち、会話の話題にする生徒が見られた。
- ・ 「天声人語で200字作文」の活動を続けたことで、文章を読んだ感想だけでなく、具体的な理由を挙げながら、自分の意見を表現できる生徒が増えた。

生徒が実際に記入した「天声人語200字作文」の内容

題 友達の大切さ <small>友達の大切さ</small> <small>友達と話をするといいです!</small>																		
は	て	台	か	を	る	の	多	そ	族	を	る	友	て	た	の			
つ	類	の	頼	僕	こ	中	い	れ	と	話	学	だ	く	な	ち	よ	僕	
て	ら	よ	僕	は	と	を	の	に	ち	せ	校	方	え	な	だ	う	に	
い	れ	う	も	こ	つ	も	り	で	か	る	ひ	た	る	な	。	な	と	
き	る	か	友	し	い	で	フ	話	共	う	と	の	か	ら	存	ら	存	っ
た	よ	存	だ	ま	つ	き	レ	ア	通	と	い	か	ら	在	自	在	て	
い	う	在	る	い	る	ッ	こ	の	こ	う	や	こ	た	分	レ	、		
	に	の	か	友	。	シ	と	話	ろ	の	み	そ	か	を	は	っ		
	か	と	っ	ろ	だ	ユ	で	題	だ	か	な	分	ら	支	、	灯		
	ん	し	灯	だ	ち	す	頭	か	。	家	と	か	た	え	友	台		

3 成果と課題

【成果】

- 職員研修等を通して、学校全体でNIEの活動について共通理解を行うことができた。
- 新聞を活用した取り組みが学校全体で増えたため、新聞に目を通す生徒が増え、新聞記事の内容について、先生に質問したり、自分で調べたりする生徒が出てきた。
- 継続した期間が長い活動や多くの回数取り組めた活動については、生徒の読解力・表現力の向上が見られた。

【課題】

- 生徒の読解力・表現力のさらなる向上を目指して、全職員での連携体制を整え、3年間の継続的な取組や教科を横断した取組を行う必要がある。
- 授業実践で新聞記事を活用するためには、教科によっては、授業の内容に合っている新聞記事が見当たらず、新聞記事を使いたいけど使えない状態が生じた。それを解消する手立てとして、普段から授業で使える素材を蓄積しておく必要がある。
- 今後も継続的に新聞を利用した活動ができるように、内容や方法を考えて工夫していく必要がある。